

令和3年度青森県循環型社会形成推進委員会議事要旨

- 1 日 時 令和3年10月29日（金）13：30～15：30
- 2 場 所 新町キューブ3階会議室
- 3 出席者 青森県循環型社会形成推進委員会委員 14名
県出席者 22名

4 概要

(1) 開会

(2) 佐々木環境生活部長あいさつ

(3) 議題

①一般廃棄物の現状について

②産業廃棄物の現状について

③循環型社会形成に向けた県の取組状況について

県環境政策課及び環境保全課から説明を行った。また、事前質疑が提出されていた内容について、当日配布資料により説明の中で回答した。

(委員からの意見)

(鈴木（拓）委員)

市町村災害廃棄物処理計画の策定に関する課題が、市町村の担当職員の不足であることは、思ったとおりだった。市町村職員はいろいろな業務を掛け持ちでされていると思うので、知識不足と情報不足などを青森県の方でひな形を準備して後方支援するとのことだが、ひな形はもう準備できているのか。

(県環境政策課)

今年度末までに準備をすることで作業を進めている。

(鈴木（拓）委員)

他の都道府県ではひな形を準備して市町村に入力してもらうような形で進めているところもあるので、そのように早めに進めていただければと思う。

災害廃棄物処理計画の重要性は、1つは平時からの災害に対する備え、また、計画を作成することにより災害時の対応能力が高まっていくので、是非、後方支援をよろしく願いしたい。

また、県土整備部や農林水産部でいろいろと公共事業をしているが、建設系リサイクル率はかなり高くなっている。産業廃棄物の中で建設系廃棄物は結構大きなボリュームをもっているの、循環型社会形成にこれからも推進に取り組んでいただきたい。

(松野委員)

資料1の2ページ目にある「ごみ総排出量と1人1日当たりのごみ排出量の推移」が、平成26年度からだんだん排出量が少なくなっている。結果が出たということは

原因があることだと思うので、平成26年度と27年度の間に何があったのかと疑問に思う。また、青森県が全国に比べてごみの排出量が多いが、全国とどこが違うのか、原因を改め、皆が頑張らないといい方向に行かないのではないかなと思うので、原因を教えてもらいたい。また、ごみは宝の山だと言う人がいるが、ごみを宝の山にするにはどうしたらいいものやらと考えている。あと、静岡県で廃棄物による土石流災害が起きたが、青森県は県の方のパトロールで安全が保たれていると思うが、この先もそういうことがないような対策があるか。

(県環境政策課)

全国と比べて大きい理由について、意識の部分の比較はなかなか難しいが、一般廃棄物の調査結果から言うと、資料の5ページ目になるが、紙類は、1人あたり全国で73gがリサイクルされているが、本県は54gで、資源化できる紙がまだ結構入っているという結果がある。組成分析調査の結果からも、資源化できるものが混ざり込んでいることが原因の1つではないかと考えている。平成26年度から27年度にかけての減少については、手元にデータがないのでこの場で説明できかねるが、容器リサイクルなど様々なリサイクルの法律がこの数年で整備されてきて、その浸透というのがあるのではないかなと思っている。

(山谷委員)

「てまえどりキャンペーン」は、スーパーで牛乳などに貼ってあるシールを何カ所かを見て、環境政策課でやっているんだなと感じていた。また、松野委員から質問があったが、26年度のあたりから環境政策課でも3Rなどの啓蒙活動をしていて、それが徐々に浸透して行って、だんだんこういう下がり具合になったのではないかと感じるが、いかがか。

(県環境政策課)

啓発活動の効果の分析は難しいが、効果が出るように今後も取り組んで参りたい。

(落合委員)

資料3の5ページに、2050年脱炭素社会を目指したという記載があるが、それに関して、バイオマス関連の内容はもうちょっと入れてもいいのかなと思っている。青森県は農業が中心になってくるので、農業からかなりいろいろなバイオマス系の廃棄物が出るので、それをうまくエネルギーや脱炭素と絡めれば、もっといいアピールになるのかなという気がしたので、少し考えていただければと思った。

(県環境政策課)

2050年の脱炭素社会実現は、昨年10月に国が表明し、県においても国の方向性に合わせて取り組むこととし、今年2月に知事が表明された。脱炭素は、各分野でいろいろな取組をしていくことになる。ライフスタイル、運輸、いろいろな産業、水産業、多岐に渡る取組で、しかも今まで以上にさらに取り組まないと、なかなか難しい目標であると認識をしている。バイオマスも含めて、県では検討中であり、具体的には、地球温暖化対策計画に盛り込んでいく予定である。

(落合委員)

現在、青森県の炭素貯留量に関し、トータルでどれぐらい貯留できているかという

データは把握できているか。

(県環境政策課)

具体的なデータは、今、持ち合わせていない。

(落合委員)

森林が多いので、青森県はほぼ上位の方になると思う。全国と比べて悪いところだけでなく、良いところも全面に出して推進していった方が良いのかなと思った。

(樋口委員)

資料1の四角で囲っている1行目の「生活系ごみ」、「事業系ごみ」は、これは大雑把に言うと、生活系ごみというのは一般家庭から出るごみという解釈でよろしいか。

(県環境政策課)

ご理解のとおりである。法律上は、事業所から事業活動に伴って発生するごみというのが、特定のものが産業廃棄物と決まっていて、事業所から排出されるものでも産業廃棄物以外のごみというものがあり、それをここでは事業系ごみということで記載している。

(樋口委員)

事業系ごみが、事業所から出る産業廃棄物ではなく、一般廃棄物であるならば、県民に訴える時に、一般向けと事業所向けの訴え方の2通りアピールの仕方が必要かと感じた。また、オフィスでは紙のリサイクルをし損なっているのではないかと感じていたが、県ではペーパレス化に対するバックアップ、支援はしているのか。

(県環境政策課)

環境政策課の取組としては、ペーパレス化のために、例えば電子的な機器を整備するための補助金を出すような取組はやっていない。紙については、無駄な紙を出さないよう、両面印刷や事務局内であれば裏面の活用などの呼びかけを行っている。

(樋口委員)

了解した。また、ごみリサイクル最終処分量というのは、これはごみを出してリサイクルをしきれなかったものを捨てたのがリサイクル最終処分量という理解でよろしいか。

(県環境政策課)

焼却した後にでも残渣的なものがあり、それは埋め立てをするしかないので、そういうものが最終処分量に含まれてある。

(樋口委員)

了解した。平成26年度から27年度にかけて、これはごみが減ってリサイクルが上がっているという変化がここだけ見えて、ここで何かあったというのは、また検証をしてみる必要があるのかなと思って聞いていた。

(堤委員長)

資料3の24ページ、環境教育の②の大学との連携のところだが、私は、このところSDGs関連事業を行っていて、今年度、何回か行う予定だが、八戸市内の高校と大学の高大連携授業の中で、環境の授業時間を使い、人材育成環境教育ということでSDGsを学ぶ時間を設けようと思っている。県で今までやっていた取組がわからない

ので、後で何か資料等があれば拝見したい。

(松野委員)

今、委員長がおっしゃったように、子どもの時からの教育が大事だと思う。ごみを出さないような、物を大事にするような、いわゆるもったいないを家庭と学校教育の中で徹底して教育することにより、この目標を達成できるような方向にいけるのではないかと考える。やはり基本的なものは教育だと思う。

ペットボトルに貼ってあるフィルムは取りましようと言えば、最初は取らなくてよかったものでも、今は綺麗に皆、取っている。買い物に行っても今はエコバックをほとんど皆、持っている。レジ袋料、3円ぐらいするが、やっぱり3円だってもったいないと思うとエコバックを持って行くようにする。なぜそういうのが必要になるかとか、無駄なことは止めましようということを提案すると、それを素直に、素直というか皆、守ってくれる。日本人はそういういいところがあると思う。なので、子どもの時からの教育や、私たちも大人になっても教育してくださればそれを守るので、そういうご指導をお願いしたいと思う。

(県環境政策課)

子どもの頃からの教育に関連し、県で実施している取組として、県内の全ての小学生に3Rチャレンジブックを配布して、夏休み期間中に、ごみの減量であるとかリサイクルに家庭で取り組んでいただいている。子どもの頃からきちんとした知識を持った方が増えていくよう、今後も継続していきたい。

(庄司委員)

環境出前講座に関連し、産資協会でも、青年部で、3地域に分かれて、毎年、小学校で環境のための講習会を行っている。パンダの着ぐるみと一緒に、環境クイズや、リサイクルとして木のチップを作るようなことをしている。コロナ渦で1年以上中止しているが、コロナが落ち着いたらまた再開したいと考えているので、そのときには、是非とも皆様に御協力していただきながら、「もっとうやった方が良い」という助言もいただければありがたい。

(熊木委員)

リサイクルに対する意識は高まってきたのかなと思っている。青森県はまだまだ全国でも下位だが、スーパー等の回収ボックスに、買い物客が入れたり、結構満杯になっていたりというのが見えて、意識が高まっていると感じている。

私の事務所でも、ポスターを掲示しているが、職員が去年あたりから自主的に回収ボックスを置いて、自分の身の周りのものを分別してから帰宅するというのを自主的にやっているの、こういうポスターの効果が、あれをしる、これをしると言わなくても浸透してきているのかなと思っている。

(増田委員)

消費者の立場だと、このリサイクルについては毎日の生活においていろいろな問題がある。市町村の消費生活に関わる会議等で「私たち、一生懸命取り組んでいるのだが、例えばプラスチックを捨てる時に、どこまで洗って綺麗にして捨てたらいいか分からず、ちょっと面倒くさくなれば普通ごみに出してしまう」という声を聞いたりも

する。消費者がはっきり分かるような形で市町村の方で広報いただければとてもありがたい。

あと大学生とか高校生は、SDG s についてとてもよく取り組んでいるので、連携したいと考えている。

(小林委員)

コープあおもりでも、平成26年頃にごみの出前講座か何かで学習会をしたのを思い出した。先ほど、紙の資源でもまだごみで資源になるものがあるとおっしゃっていたが、例えばピザの箱も綺麗であれば資源だけれども、油が付いているとごみになるというのを学習した時に、結構な人数の組合員が、「えっ、そうなんだ」と、ちょっとしたことを気づかないまま捨てているということがあったので、今日もまたこの話を持ち帰って皆さんに伝えながら、SDG s に向かって頑張りたいと思う。

(花松委員)

産業廃棄物の目標値が記載されているが、目標値の達成はどのような見込みか。全国的な見方として、目標値を達成すれば青森県の産業廃棄物の状況というのは少し改善するというものか。具体的な目標として317万4千トンと書いているが、目標値という具体的な数字を掲げているということは、今後達成できるものなのか。

(県環境保全課)

この計画を策定する際にいろいろ調査した上でこの数値を掲げることになっている。一部、達成が難しい可能性がある部分も、目標値なのでそこに向かって進むという意味もあり、厳しい数字にはなっていると思う。

(花松委員)

工業会としても、是非とも達成できるように応援をしたいということを言いたかった。

それからもう1つ。優良産廃処理業者の認定状況があるが、これ、工業会の方の企業側から、「優良でないのとどこが違うんですか」と質問があった。「頼む時、優良の方がよろしいでしょうか」という質問が散見されたことがある。これ自体、会員の方々から、「免許であればゴールドと普通ですけれども、その程度の違いなのか、あるいは違反をしている企業なのか」という質問があったことを記憶している。同じ処理業者で優良と優良でない業者が混在している。業者を育てるという意味ではいいと思うが、違いを教えてほしい。

(県環境保全課)

優良認定がある・なしに関わらず、許可業者であれば問題なく委託をして構わない。ただし、先ほど言ったように、優良認定業者は許可の有効期間が長くなるというメリットがあるという程度の違いだけなので、そこは誤解をなさないようお願いしたい。

(鈴木(育)委員)

レストランで使用しているテイクアウト用の容器は、プラスチック製であるが、プラスチックを削減したいということであれば、それを止めて、環境にやさしい土に還る素材を全面的に使った方がいいんじゃないかなと思う。やるのなら徹底してやった方がいいんじゃないかなと思っている。

(県環境政策課)

容器の件に関しては、バイオ素材は値段が高かったり、色々なものがあつたりして、様々な検討課題があるかと思うが、ご意見を踏まえて、今後、様々考えていきたい。

(乙山委員)

PCBの廃棄物は、皆、「PCBは怖い、PCBは怖い」と言うが、実は何が怖いのか、それに入っている物がちょっとよくわかっていないところがある。破産した会社の破産管財人になった時に、2件ぐらい不動産があり、県からPCBの書類が届いた。それを見た時に、「あっ、どうしよう。どうなるんだろう」と思いながら、書いてある連絡先に電話をしたら、すごく優しく対応をしていただいてほっとした。なので、もうほとんど事業を閉じている方とか、何かよく分からない方とかが書面を見ると、「どうしたらいいんだ、何か悪いことをしちゃったのかな」って思うかなと思ったので、連絡があつたら優しく対応をしてくださると良いのかなと思った。

(堤委員長)

本日の案件についてはここで終了とする。

(4) 閉会